

3 3 交流イベント実施報告書

(1) 交流イベントの概要

ア 交流イベントの目的

近年、人口減少や少子高齢化の進展は著しく、人口減少対策や活力ある地域づくりに関連した市町への支援が村山総合支庁における喫緊の課題となっている。

そこで、関係人口の参画による地域コミュニティ機能の維持・協働の可能性を探るため、地域コミュニティ活動に興味のある首都圏在住の若者等による交流イベントを開催し、実際に地域コミュニティとオンラインでつなぎ、「地域コミュニティ参画に係る意識調査」だけでは拾いきれない関係人口（※）の細かな意見を聴取した。

※本調査における「関係人口」とは、「主体的・継続的に地域コミュニティ活動に参画する者」を指す。

[交流イベントのねらい]

- 1回目：関係人口が地域の困りごとに対する解決の糸口を見つけること
- 2回目：関係人口に主体性を持ってもらうこと

イ 申込方法等

- (1) 定員 20名
- (2) 対象者 村山地域のコミュニティに関心のある首都圏在住者
- (3) 参加費 学生・10代：無料、20代：1,000円、30～40代：2,000円、50代以上：3,000円
- (4) 告知方法
「ヤマガタ未来ラボ」ホームページ・SNS



【参考】ヤマガタ未来ラボとは…

山形に関わる全ての人が、これからの自分らしい山形との関わり方を見つけられるようになるための情報・機会を提供するコーディネートメディア。イベント情報や 求人情報、県内在住者によるコラム、県内外の山形ゆかりの人物・場所等のインタビュー記事、職業体験プログラムの企画運営、コミュニティ形成の場の提供などを行う。

- ・月間PV約30,000前後（5～6割は県外からのアクセス）
- ・ユーザー層：山形県内で働く、または、県外在住の山形にゆかりのある20～40代の男女がメイン。今後の自分のキャリアを模索していたり、県外で山形県へのUターンを潜在的・顕在的に検討している人によく見られている。

- (5) 申込方法 専用申込フォーム（「ヤマガタ未来ラボ」ホームページ）
 - 1回目交流イベントページ <https://mirailab.info/event/42882>
 - 2回目交流イベントページ <https://mirailab.info/event/43090>

(2) 交流イベント実施結果

ア 1回目交流イベント概要

◆ 内容

山形と東京をオンラインでつなぎ、村山地域の地域コミュニティ組織から当該地域の「課題」や「もっとこうしたい」と思っていることを交流イベント参加者（以下「参加者」という。）である首都圏在住者（関係人口）に伝え、参加者が地域を活性化させるアイデア出しを行う交流イベントを開催した。

1回目の交流イベントのねらいは「地域コミュニティの困りごとの解決の糸口を見つけてもらうこと」とした。

◆ 日時

令和5年11月25日（土）13時30分～15時30分

◆ 会場

ピアノラウンジゆき（〒104-0061 東京都中央区銀座6丁目4-16 花椿ビル）



山形出身・在住歴のあるご夫妻（小川力也さん・小川弘子さん）がオーナーで、山形県アンテナショップのパートナーショップにもなっており、季節の山形のフルーツを提供する等山形愛が溢れるお店

◆ ゲスト地域・ゲストスピーカー

山形市やよい町内会 会長 門脇 徹 氏

(場所：やよい町集会所 (〒990-0835 山形県山形市やよい2丁目1-33))



交流イベント当日は、やよい町集会所からオンラインで参加

◆ プログラム

- 1 開会
- 2 山形の地域を元気にするアイデア出しタイム
 - (1) やよい町内会による課題提示
 - (2) アイデア出し
 - (3) フィードバック
- 3 交流タイム
- 4 閉会

◆ 参加者

- ・人数：13人 (※全員現地参加)
- ・性別：男性…9人、女性…4人
- ・年代：20代…4人、30代…4人、40代…3人、50代以上…2人
- ・出身：山形県出身…12人、それ以外…1人

「町内会のお悩み解決アイデア出し」の様子

- ① 町内会長がやよい町内会を紹介した後、悩みである「アパートに住む一人暮らし等の若者と接点がないが、どのようにアプローチしたら良いのか」という点について説明し、参加者が意見交換。

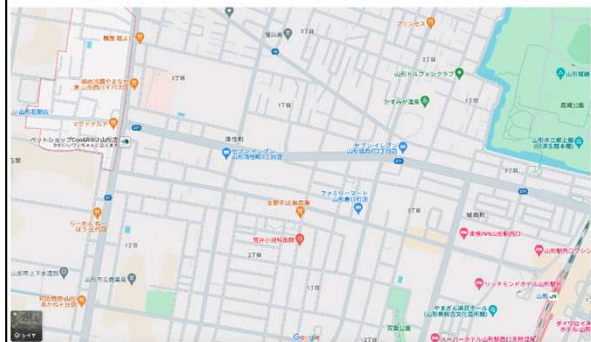


YoutubeアカウントやHPを開設して情報発信したり、防災講演会を実施するなど町内会の活動内容を町内会長から聞く参加者

「やよい町内会」説明資料



やよい町内会

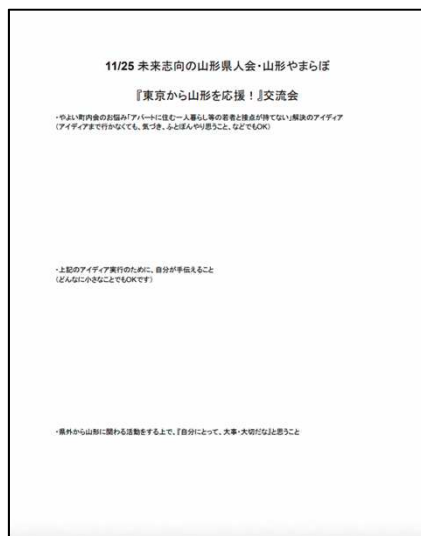


・アパート暮らしの若者と接点を持つには？

・手伝うとしたらどんなこと？

・県外から山形に関わる上で大事なこと

② 参加者が4人1組程度のグループになって、お悩み解決のアイデアについて意見交換。



参加者はワークシートを使用



町内会のお悩みのお解決策について話し合う参加者



町内会長に質問する参加者

③ 参加者が考えた内容を町内会長に発表して終了。



「アイデア出し」で出たアイデアの一覧

やよい町内会のお悩み「アパートに住む一人暮らし等の若者と接点を持ってない」解決のアイデア（アイデアまで行かなくても、気づき、ふとぼんやり思うこと、などでもOK）

●若者が課題と感ずることと解決策の方向性

- ・町内会というものを知らない／町内会に入ると何ができるのか何が良いのかわからない／町内会って何？入る理由がわからない（町内会がなくても困らない時代ではないか）
⇒ 入会後のメリットを明確にする／町内会のお知らせやイベント等のチラシをポストに投函するなどして外に出たくなる理由を作ると良いのではないか／入りたくない人に、強制的と感ずないアプローチが必要ではないか
- ・町内会長が「何かあった時に若者を助けたい」という趣旨のお話をされていたが、体力的に有事の際には若者は助けられる側というより高齢の方を助ける側になる方が自然と考えられるのではないか。だから「助けたいので」と言われるよりも「助けて」と言われた方が「じゃあ、力貸しますよ！」と出ていく気になると思う

●モノでつると若者は出てくるんじゃないか？

- ・交流会を開催して米やギフト券を配布し、参加しない場合はLINEグループを作ってメッセージのやり取り（対面じゃなくても良いと思う）
- ・各スーパーなどの割引チラシの配布
- ・県産品の定期便（フルーツ、米など）

●連絡手段ニーズ：LINEの活用

- ・公式LINE（入居時登録、時々発信・月1回くらい）
- ・町内会のLINEグループ →メッセージのやりとりだけでもOK
- ・連絡はLINEで、Zoomで会議する

●若者のニーズの利用 例）「行きつけの店が欲しい」等

- ・町内会に参加しなくてもフラッと行けるような行きつけの飲食店があるといいと思うので、地域の飲食店に協力してもらったり、飲食店に若者向け町内会の広報に協力してもらってはどうか

●イベント

- ・若い人が楽しいと思うイベントを開催する

●ネックと思われる点

- ・田舎の高齢者の話は長い
- ・世代間ギャップ
- ・世代が違くと全然受け入れられない感じがする
- ・ITリテラシー

上記のアイデア実行のために、自分が手伝えること

- ・普段県外にいる時は、お店の宣伝PRをして（オンラインで活動）、山形に帰省した時に、リアルに手伝うというやり方ができると気づいた
- ・今回みたいに相談に乗ります！

県外から山形に関わる活動をする上で、『自分にとって、大事・大切だな』と思うこと

- ・相手のためになるという前提のもと、自分が楽しいことが重要
- ・山形のことを案外知らないと県外に出て初めて気づいたので、自分が山形を知ることが重要
- ・関係者がお互いに尊重すること
- ・今回のようなイベントに参加すること
- ・やりがい・貢献している感を実感できること
- ・県外にいても地元の課題を考えること

交流タイムの様子



ワークショップ後に、交流タイムを実施



交流イベント会場と一緒に、町内会長も遠隔で乾杯



交流タイムの最中に、グループで話し合っていた内容（参加者の実際の体験談）を1対1で町内会長に伝え、意見交換



最後に集合写真を撮影

参加者の感想

Q 1 本日の交流イベントに参加してみても、率直な感想を教えてください。

- ・山形を感じるすてきな会でした。
- ・東京にも山形LOVEな方が沢山いることを知れて嬉しくなりました。
- ・東京にいても同郷の人と会う機会がないのでよかったです。
- ・事前課題設定が用意されている方が話が早い。交流→課題の方が盛り上がる。参加する人の動機が分かると仲間意識が生まれて楽しめる。
- ・真面目なディスカッションもあり新鮮だった。
- ・山形では味わえない雰囲気と人柄に触れることができ素直に楽しかった！！
- ・楽しかったです。
- ・人数、会場の広さ、雰囲気、とてもよかったです。ワークショップも良かったです。
- ・楽しい時間を過ごせました。
- ・東京にいながら山形への想いが強い人とお話する事ができ、有意義な時間となりました。
- ・楽しかったです。初めて参加しましたが、来てよかったです。
- ・初めて参加しましたが、若い方もたくさんいらっやって、とても楽しい時間を過ごしました。また、このような機会にぜひ参加したいと思います！
- ・山形の食べ物がおいしくて、山形の方ともお話しできて楽しかったです。

Q 2 交流イベントに参加したことで、「県外から山形に関わる」気持ちに変化はありますか？

- ・もっと手伝いたい気持ちになった …… 12人
- ・特に変わりはない …………… 1人
- ・関わりたい気持ちが減った …………… 0人

**Q 3 上記の気持ちの変化の理由・背景・要因と思われることは何だと思えますか？
簡単で良いので、教えてください。**

- ・地域おこしではないですけど、山形を広めることができればと思います。
- ・みなさん同じ気持ち・意見が一致した。
- ・地元の課題は解決していきたい。
- ・身近に感じられるイベントであったから。
- ・皆さんと色々なお話ができたこと。
- ・若い人が真剣に考えてる事がわかった。
- ・楽しいから
- ・山形を知ること
- ・また参加したい。山形をもっと知りたい。
- ・県外から山形に関わっている方が意外と多かったの、私も少しでも何かお役に立てればと思いました。
- ・山形のいい所をもっとアピールして、集客率をあげたいです。
- ・山形関連で動いている方がたくさんいらっやって、東京の関係者が多いことを知ったため。

Q 4 その他、お気づきの点などあれば、ご自由にご記入ください。

- ・定期的にイベントがあるとありがたいです。
- ・店いいですね。また参加したいです。
- ・もっとこういった交流会を増加してほしい。
- ・ありがとうございました。

地域コミュニティ側の感想

交流イベント終了後、「『アイデア出し』で出たアイデアの一覧」（41ページに記載）をお渡しし、交流イベントで出たアイデアをフィードバックするとともに、交流イベントに参加した感想を伺いました。



山形市やよい町内会
会長 門脇 徹 氏

Q1 参加者の意見を聞いて、どうでしたか？

- 若い人の意見を直接聞いてよかった。若い人はメリットがなければ町内会に参加しないといった意見など参考になった。
- 画面の向こうでグループで話し合ってる内容はわからなかったが、前に出てきてくれた方と画面越しに直接詳しく話した内容には納得感があった。
- 早速、町内会の役員にも、交流イベントで聞いた意見を共有した。”若い人はメリットがなければ町内会には参加しない”という話を伝えたら、共感する意見もある反面「それだと老後が寂しくないだろうか？」という意見もあった。
- もらった意見を参考にして、自分たちに合わせた形でやれそうなことからやってみたい。

Q2 今回、こういうことをやってみてどうでしたか？

- 町内会の活動は『失敗したって良い。うまくいったら素晴らしい！少しでも前進すれば得！』という気持ちで行っている。今回の交流イベントに関わって若い人の話を聞く方法がわかったので、自分達でも形を変えてやってみようと思った。
- 若い人には、わたしたちのような地域の年配者に付度して発言したり、気に入られようとして媚びたりへつらったりしてほしくない。とんでもない発言をしたって良いので、どんどん意見が欲しい。

イ 2回目交流イベント概要

◆ 内容

山形県内で地域づくりに取り組んでいる方をゲストに招き、県外から山形に関わるときのポイント等を伝授していただくとともに、山形県村山地域のコミュニティ組織の話題を提供し、実際にどのように地域に関わるかなど地域をより良くしていくためのアイディア出しを行う交流イベントを開催した。

2回目の交流イベントのねらいは「関係人口に主体性を持ってもらうこと」とした。

なお、1回目交流イベント終了時のアンケートにおいて「交流してからアイディア出しをした方が意見が出しやすい」という意見が寄せられたため、アイディア出しの前に交流タイムを実施した。

◆ 日時

令和6年1月20日（土）14時～16時30分

◆ 会場

ピアノラウンジゆき（〒104-0061 東京都中央区銀座6丁目4-16 花椿ビル）

◆ ゲスト地域・ゲストスピーカー

FURUSATOの未来 伊藤 一之氏



西山形の酒を造る会 副会長 柏倉 昭裕 氏（明源寺住職）



交流イベント当日は、山形市柏倉地区からオンラインで参加

◆ プログラム

- 1 開会
- 2 交流タイム1（自己紹介など）
- 3 講演「県外から山形に関わるときのコツ」（FURUSATOの未来 伊藤 一之氏）
- 4 山形の地域を元気にするアイデア出しタイム
- 5 交流タイム2
- 6 閉会

◆ 参加者

- ・人数：6人（※現地参加5人、オンライン参加1人）
- ・性別：男性…3人、女性…3人
- ・年代：20代…3人、30代…1人、40代以上…2人
- ・出身：山形県出身…6人

交流タイムの様子

- ① 現地参加者・オンライン参加者、共に自己紹介。



- ② 参加した理由、山形との関係、自分が取り組んでいることなどを紹介。



(交流タイム2の様子)



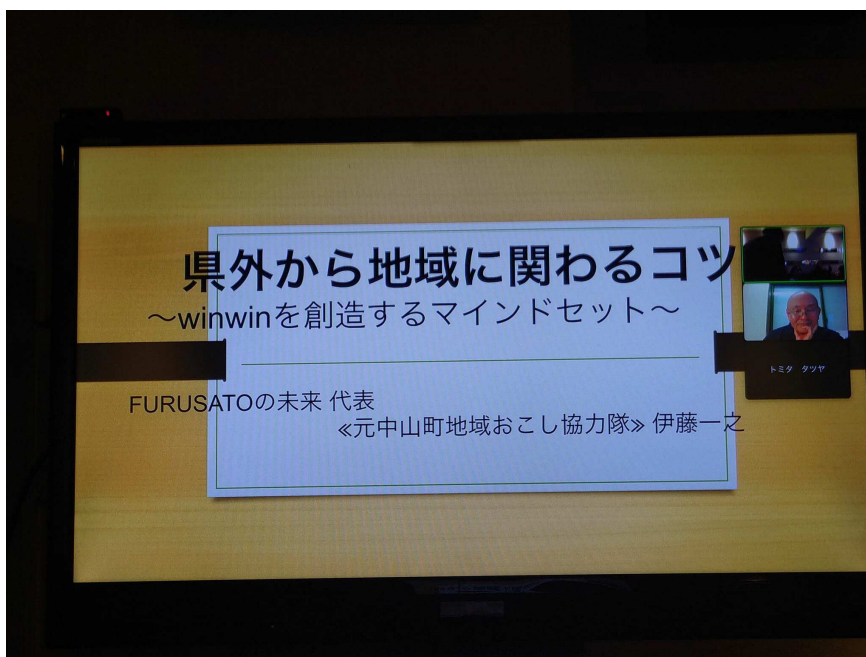
「西山形の酒を造る会」副会長からも「なぜ山形を出ていったのか?」、「どんなことに関心があるのか?」という参加者への質問があり、個別に答える場面もあった

講演「県外から山形に関わるときのコツ」

FURUSATOの未来 伊藤 一之氏より、

- ・Uターンのきっかけ
- ・Uターン後の活動
- ・地域おこし協力隊での活動で気づきを得た、地域で活動するときのポイントなどを踏まえ、「県外から地域に関わるコツ」をテーマに講演してもらった。

具体的には、「自分はどうか」という主体性を保つことの大切さ、同時に自分のやりたいことの結果を求めるのが先ではなく、まずは、地域側と関係性をつくることを大切にすることが好循環を生むことなどを伝えてもらった。



「山形の地域を元気にするアイデア出し」の様子

県外から地域に関わるポイントを伝えた上で、「山形の地域を元気にするアイデア出し」を実施。今回のイベントでは「西山形の酒を造る会」に話題を提供してもらった。



司会が、事前にヒアリングしていた情報を踏まえ、「西山形の酒を造る会」について説明



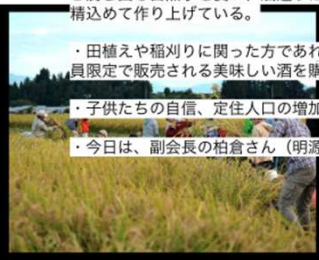
「西山形の酒を造る会」副会長が活動について説明したり、参加者からの質問に回答

「西山形の酒を造る会」説明資料

ゲスト地域へのアイデア出し

～西山形の酒を造る会～
日本酒『柏倉門傳』

- ・地元で取れた米と、地元のうまい水を使って、地元の酒を飲みたい
- ・平成17年から西山形の酒造り
- ・酒米（県産オリジナルの出羽燦燦）、地区内の田で栽培、水は荒沼から湧き出る自然水を使い、酒造りは地元の蔵人が多い「男山酒造」で丹精込めて作り上げている。
- ・田植えや稲刈りに関った方であれば地元の方以外でも会員となり、会員限定で販売される美味しい酒を購入できる（酒屋で買えない）
- ・子供たちの自信、定住人口の増加に繋げていきたい
- ・今日は、副会長の柏倉さん（明源寺 住職）がオンライン参加！



「アイデア出し」で出たアイデア一覧

西山形の酒を造る会が今後より良い活動をしていくためのアイデア

- ・ゲストハウスがあると良い
- ・西山形・地元に住んでいる人が1日生活する様子・生活をSNSやWEBに投稿する
- ・SNSアカウントで情報発信
- ・「ワーケーション」や「旅行がてらに農作業などを手伝う」
- ・若い人は、新聞などをみないので、SNSで発信すると良いと思う。
⇒まず知ってもらう ……インスタ、Facebook、Twitterなどの活用
- ・移住して欲しい場合は、成功者に話を聞くなどした方がよい。
- ・田植え、稲刈りをした姿を、Facebookに投稿したい。
- ・お寺の民泊活用（スペースマーケット、エアビーアンドビーなどの空間利活用マッチングサービスを活用してはどうか）
- ・世界に一つだけの親孝行の日本酒を作ろうという企画。商品は、田植え～お酒にするまでの工程体験とお酒自身。田んぼのオーナーとなり、自分の田んぼの田植え・稲刈りを行い、酒を造ってもらい、世界に一本だけの酒を親や恋人にプレゼントするという企画。稲の世話は、農家の人にやってもらう。親も手間ひまかけて息子が作った酒をプレゼントしてもらったら、すごく喜ぶのではないかな。

| 自分のこと | 地域のこと |
|-----------------------------|--------------------------|
| ・好きなこと ・得意なこと ・やりたいこと | ～西山形の酒を造る会～ 日本酒『柏倉門傳』 |
| どんなことがしたい？ アイデア | |



参加者に主体性を持ってもらうための工夫として「自分のこと（好きなこと・得意なこと等）」を記入するワークシートを用意

緩やかな雰囲気の中、雑談も交え、アイデアを提案

参加者の感想

Q 1 本日参加しようと思った「きっかけ」「理由」「背景」等を教えてください。

- ・ヤマガタ未来ラボのLINE公式アカウントに登録していて知ったから。
- ・11月のイベントに参加して良かったので再度参加した。
- ・酒屋の孫なので、山形の皆さんとのあるある交流を楽しみにしてきました。
- ・東京で山形と関わりたいから。今後、山形にUターンするにあたって、「山形の地域」とつながるヒントを得たかった
- ・スジェールバーを田園調布でやっていました。

Q 2 交流イベントに参加して、何か得られたものはありますか？

あった場合、それはどんなものですか？

- ・山形愛が深まりました。事業展開したいです。
- ・人とのつながり。
- ・元気、やる気、つながり、笑顔。
- ・Uターンして山形で活動するにあたっての心構え、つながり。東京で「山形」という共通事項で盛り上がったこと。
- ・伊藤さんの本質的な話。同じ朝日町出身者の方とつながりました。

Q 3 上記のようにお答えになった「要因」「ポイント」はどんなところですか？

- ・人とのつながりが大きいです。
- ・山形県出身だがなかなか普段知り合うきっかけがない。
- ・伊藤さんのおかげで、“あるある”をすごくわかりやすくプレゼンテーションしていただいた。
- ・伊藤さんの経験「関係質理論」。山形を懐かしむだけでなく「こうしたい」、「これはどう？」など未来志向の話ができた。
- ・実際当事者になること、評論家・上から目線の話はダメ。

Q 4 今後、どんな風に、山形の地域と関わりたいですか？

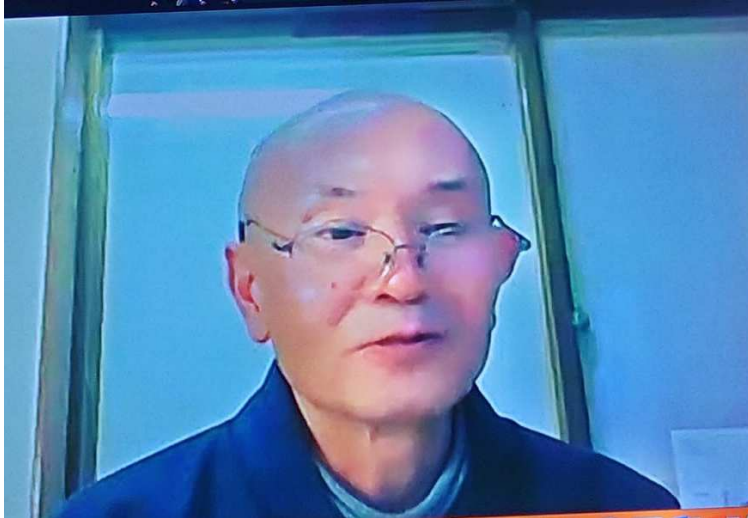
- ・デュアルライフをしていきたいので、山形にも何か役に立つことをしたいです。
- ・山形にIT・デジタルの分野で関わっていきたい。
- ・伊藤さんみたいな立ち位置に立って関わりたいです！
- ・自分が「住む」「働く」という形で関わりたい。「山形の良さ」をアピールしていきたい。
- ・毎月帰って山形を満喫します。

Q 5 その他、お気づきの点などあれば、ご自由にご記入ください。

- ・山形を活気ある場所にしたいです。
- ・食べ過ぎました。山形美味しいもの多いので。
- ・東京に出てきて良かったのは、ヤマガタ未来ラボに出会って、“山形にも面白いところってあるんじゃない”と思えたこと。今年山形にUターンします。

地域コミュニティ側の感想

交流イベント終了後、交流イベントについて感想を伺いました。



西山形の酒を造る会
副会長 柏倉 昭裕 氏
(明源寺住職)

Q 参加者の意見を聞いて、どうでしたか？

今回のワークショップに参加させていただき、感じたことは、皆様が「山形を何とかしたい気持ち」で溢れていたことです。「山形が好き」「でも、一人で、どうしたらいいのか分からない」。それを、支援する活動なのだと分かりました。

僕自身、京都に出て自分のやりたいことを思う存分に試し、実家の父母の介護のために山形に帰って来ました。だからこそ、会に出席されている「自分のやりたいことを試したい」若者の気持ちが分かります。ワークショップのざっくばらんな雰囲気の中でも、皆様の意見感想や僕の質問に応じた専門的アドバイスをお聞きすると、これなら東京で働いている若者も力強く生きて行ける気がしました。一人で悩まない仲間意識、友達が傍にいること、それだけでも、安心感につながります。「ふるさとを出ての東京での活動」と、「いざ帰ってくる場合の支援」、それは大事なことだと感じました。

僕は、お寺の住職として、心の面での地域おこしをやっています。心の面で、自信を取り戻し、美しさを再確認し、便利さやお金よりも心の面での豊かさ・安心感・充実感・満足感の大切さを発信しております。「西山形の酒を造る会」も、その一環です。また、個人的にも、都会と田舎をつなぎ、鬱や引きこもり、自殺問題、宗教問題など、「本当の意味での宗教とは何か」「生きる意味とは何か」ということを明らかにすることで、苦しみから出る支援をしています。会に参加されていた富田様からいただいた「世界に一つの自分の酒を親に贈る」という企画も、「柏倉門傳」とは別に、耕作放棄地を利用した地域活性化にならないものか、思案中です。僕自身、儲けようと気は全く無く、喜んでいただきたいし、喜びの声を、地域みんなに知っていただきたい。「柏倉門傳」も、儲けるためでなく、みんなが楽しむためのお酒として、造っているものです。

今回、ワークショップを通じて、様々な御意見をいただき、今の自分達に何が必要なのか精査いたします。とりあえず、皆さまに共通して言われた酒を造る会の「SNSアカウントの作成」を最優先にいたします。講師の伊藤一之先生の「何をやりたいのかゴールを決めて、その熱意で、周囲を溶かして行く」方法で行きたいと思っております。会でいただいた御意見を僕なりにまとめ、高野会長へも報告いたしました。

この度は、ワークショップに飛び入りで参加させていただき、誠にありがとうございました。これからも引き続き、一緒に活動して行きたいと思っております。よろしく願いいたします。

(3) まとめ

【関係人口】

- 地域外・県外に、山形の地域コミュニティに関心がある人は確かにいる。山形の良さや自分のアイデンティティに気付いて山形に関心を持ち、何かしていきたいと思っている人向けに、「山形に対して懐かしむだけじゃなくて、これからどう関わっていくか」という未来志向のコンセプトのイベントを首都圏で開催すると、20～30代の若い世代も参加する。
- その背景としては、SNSなどで個人が情報発信・収集しやすくなったこと、気持ちを共有する人があまり周囲にいないこと（山形県出身者が県外に出て、日常生活の中で山形県出身者と出会う機会は多くない。また、県外に転出した山形県出身者の中には「山形は好きで、将来はUターンしたい」、「山形は好きだがUターンはする気はない」、「Uターンするかどうかはわからないけれど、山形を応援・盛り上げたい」など、いろいろなタイプがいる。山形という共通事項があっても、「山形に関わりたい気持ち」に温度差があると、なかなか理解・共感が得られない場合も多々ある）などが挙げられる。
- イベントで参加者同士がつながることは、「自分だけじゃなかった」と、個人の思いを肯定する効果がある。「人とつながることの楽しさ」がイベントに再度参加してみようと思う動機になり、また「自信」へと、さらには個人が山形に関わる「勇気・モチベーション」へつながる。

【地域コミュニティ】

- 関係人口に関わってほしい・手伝ってほしいという想い・興味関心があっても、その存在を具体的にイメージすることができなければ「手伝ってくれる人なんて本当にいるのか」、「どんなことを考えている人たちなのか」などと感じるだけでピンと来にくい。しかし、オンラインでつながって実際に話をすると一気にイメージが湧く。

【地域コミュニティと関係人口の関係性構築】

- 地域コミュニティと関係人口は、お互いに対して「興味関心はあるが、よくわからない」と感じていたり、様々なギャップがあることが伺える。徐々に関係性を作りながら、ギャップを埋める工夫をしていくことで、地域コミュニティに参画する関係人口は増えていく可能性があるかと推察される。